

会議録

| | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議の名称 | 男女平等参画推進委員会 平成24年度 第4回 |
| 開催日時 | 平成24年11月22日（木曜日） 午後6時30分から9時00分まで |
| 開催場所 | 田無庁舎3階 庁議室 |
| 出席者 | 出席：渥美委員、石崎委員、小澤委員、牧田委員、大野委員、坂元委員、谷関委員、渡辺委員、高田委員、大竹委員、照沼委員 欠席：島委員、新保委員、布施委員 事務局：浜名課長、小室係長、貫井主任 |
| 議題 | (1) 第3回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について (2) 職員意識・実態調査の実施について (3) パリテ登録団体へのグループインタビュー調査について (4) 第2次男女平等参画推進計画各課実績（平成23年度）評価方法について (5) 市民意識調査結果速報について (6) その他 |
| 会議資料の名称 | (1) 西東京市の現状分析ー統計データから (2) 第3回男女平等参画推進委員会会議録（案） (3) 職員意識調査・実態調査票 (4) 1 パリテ登録団体へのグループインタビュー計画 (4) - 2 パリテ登録団体へのグループインタビュー事前アンケート調査 (5) 第2次男女平等参画推進計画各課実績（平成23年度）評価の進め方（案） (6) - 1 市民意識調査結果入力調査票 (6) - 2 市民意識調査報告書（速報版） |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録 |
| 会議内容 | |
| <p>開会</p> <p><u>課長挨拶</u> <u>委嘱状交付（新委員 3名）</u> <u>委員の自己紹介（新委員 3名）</u></p> <p>1 西東京市の現状データ、計画等から (事務局から資料の説明) 委員長： 転入、転出者の年齢層はわかるか。西東京市の待機児童数が多いので気になった。</p> <p>事務局： 若い世代、子育て世代が多い印象である。</p> | |

委員長：

11ページの昼夜間人口をみると、市内の企業にワーク・ライフ・バランスの施策を打てば、ある程度市民に施策の影響を与えられると推測される。

事務局：

14ページに載っているが、事業所の規模が小さいところが多いので、ワーク・ライフ・バランスを進めにくいところもある。

委員長：

事業所の規模が小さいからといって、一概にワーク・ライフ・バランスを進めにくいとは言えない。

委員長：

保育所を増やすと、潜在的な待機児童数も増えていって、待機児童がなかなか減らないということがあるというが、西東京市でもそうなっているか。

事務局：

そのようになっている。

委員長：

民間活力を使って小規模の託児などを拡充する試みは、近隣市でやっている。

事務局：

今後、調査を進める。

委員長：

以前、委員会でも、市の調査で企業を訪問してワーク・ライフ・バランスの評価づけをA～Dでしていったという話を聞いたが、どういう考えで進めたのか伺いたい。先ほど申し上げたが、西東京市内に中小企業が多いからといって、ワーク・ライフ・バランスの実現が難しいということにはつながらないといったことが、調査結果からわかるかもしれない。

事務局：

次回委員会までに調べて、お示ししたい。

委員：

男女平等参画の計画、施策づくりは協働コミュニティ課が担当していて、パリティが実施しているのか。

事務局：

そのとおりである。

○委員：

パリテが具体的にどのような事業を実施しているか、この資料にはないのか。

事務局：

今年度の事業を次回委員会までに出させていただきます。

委員：

何名が働いているか、等もわかるとよい。

事務局：

男女平等参画施策については、ここにいる2名である。婦人相談員は職員が1名、嘱託職員が4名となっている。

委員：

どこの自治体も職員数は少ないと聞いている。それを支えるような委員会はあるのか。

事務局：

公募市民8名によるパリテの企画運営委員会というのがある。具体的にどのような企画、事業をやっていくかを考えている。パリテまつりについては、また別の委員会によって市民の意見を聞いている。

委員：

パリテの企画委員会の委員は、かなり専門的な知識が必要だと思うが。

事務局：

いわゆる専門家ではない。関心と熱意のある市民の意見を取り入れていきたいという考え方である。

委員長：

委員会同士をつながりはないのか。

事務局：

委員会同士と一緒に勉強会をしたことはある。

委員長：

予算の時期に合わせて、両委員会が合同で話し合う機会があるといいと思う。または、来ていただいて何をしているか話していただきたい。

委員：

実際に現場にいる実行委員会と、どこかの時点で意識を共有できる場があるといいと思う。

事務局：

実施に向けて検討していく。

2 第3回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について

委員長：
何か問題点等はないか。

委員：
なし

○委員長：
では、これで承認とする。

3 職員意識・実態調査の実施について

（事務局から資料（3）の説明）

委員長：
次回推進委員会で、結果の速報は見られるのか。

事務局：
その予定である。

4 パリテ登録団体へのグループインタビュー調査について

（事務局から資料（4） 1、2の説明）

委員：
調査の実施目的に、「パリテを活性化させるための団体との協働のあり方等をたずねる」と書かれているが、団体と市との協働が目的なのではないか。

事務局：
団体と市との協働も目的である。

委員：
登録団体連絡会においてグループインタビューを実施するということだが、これが連絡会になってしまうのか。要綱もなく連絡会をつくるのはどうなのか。

事務局：
登録団体連絡会の初回ということで、今後の登録団体のあり方を確認していきたいと思っている。第1部を活動団体の年間の報告とし、その流れで後半にグループインタビューを実施したいと考えている。

委員：
それは非常に危険だと思う。登録団体連絡会のあり方をまず固めて、実施していくべきだと思う。

事務局：

全2時間のうち、前半の1時間を登録団体の報告会、後半の1時間をグループインタビューとすることを予定している。

委員長：

グループインタビューは、全団体一緒に実施するのか。

事務局：

2つにわかれて、6団体ずつ実施する予定である。

委員：

団体はこれまでもパリテには協力してきている。協力姿勢のある団体に対して、できるだけ開催の趣旨をわかりやすくし、報告会とグループインタビューが混ざって本来の趣旨がわかりにくくならないようにしてほしい。前半、後半の趣旨、目的を団体にしっかり説明してほしい。

事務局：

パリテ登録団体が一同に会する機会がなかなかないので、連絡会をつくっていくなかで懇談会の要素も含めていこうと考えている。

委員：

何をしたいのかははっきりさせていただければ、団体は協力するだろう。趣旨をはっきりさせてほしい。

委員長：

女性団体が多い印象で、連絡協議会という枠組みだと男性が参加しにくいかもしれない。練馬区のねりまパパなどとも協力できるといいと思う。男性の団体を男女平等参画の活動へ周囲がつながり支援が必要だと思う。

委員：

市民意識調査結果をみると、パリテや情報誌について知らない人が多い。これは問題だと思う。

委員長：

どのように配布しているのか。

事務局：

公民館、保育園、図書館、また中学生には全員で、14,000部を配布している。

委員：

紙質、印刷は他の団体から見ると非常によいと感じる。

委員：

安く作成してより多くの世帯に配布するという方法もあるだろう。

事務局：

全戸配布は市報でやっているが、別料金がかかる。

委員：

市報にパリテの活動を掲載すればよい。

事務局：

1面にDVに関する記事を掲載したこともあるが、市報には様々な分野を掲載する必要があるので、頻繁には掲載できない。

委員：

西東京市のホームページでは、情報誌パリテの過去の発行分が見られるようになっている。

委員：

パリテの活動を、市民に周知してもらうことがまず必要なことである。

委員：

予算も限られているし、広報はどこも同じ苦勞をしていると思う。努力の一語しかないところがある。資料（4）-1に書かれているパリテ登録団体は皆、男女平等参画と関係がある団体だが、西東京NPO推進センター（セプロス）と、ワーカーズコレクティブちろりん村は、団体目的の文章が男女平等参画と直接的には関係していないと思われるので、登録団体連絡会のなかでどのように男女平等参画と関わっているのか聞けるといいと思う。

5 第2次男女平等参画推進計画各課実績（平成23年度）評価方法について

（事務局から資料（5）の説明）

委員長：

なぜグループはこのような分け方になっているのか。一回目と二回目のグループは違っていいのではないか。

事務局：

グループ長を3人決めて、それで進めていきたいと考えている。

委員：

まず、何をすればよいのかよくわからない。161の事業の評価を委員がしていくのか。

事務局：

今年度は大きくくりに、18の取り組みの方向性のみ、委員に評価していただきたいと思う。

委員：

各課が161の事業について評価を書いてきて、それを見ながら委員が18の取り組みの方向性を評価すればよいのか。

事務局：

そのとおりである。

委員長：

各課が161の事業について評価を書いたものは、委員は目を通す必要があるのか。

事務局：

委員には、担当の事業、施策については目を通していただきたい。

委員長：

委員はA～Dで評価をつけることよりも、事業の方向性と取組内容について、それぞれ適切であったか見ていくことを、まずやるべきである。また、この委員会の場では評価というよりも、市民の立場で施策についての意見や、他にこういうことをやったほうがよいなどといった、意見やアイデアを上げていくほうが重要だと思う。

委員長：

161の事業の各グループの担当事業の振り分けは事務局でやるのか。

事務局：

その通りである。ただ、全体の事業も目を通していただきたい。161の事業以外の事業の提案は、無理のない範囲でお願いしたい。

事務局：

次回委員会までに、もう一度評価の進め方、段どりを整理してわかりやすいかたちでお示しする。各課が実施した評価結果については完成次第委員に送付する。

委員長：

評価はどうやって活かしていくのか。

事務局：

評価結果を各課にフィードバックする。これを繰り返していくことによって、施策の実施において男女平等の視点を持つことが根付いていくことにつながると考えている。

委員：

A～Dの評価は、市は様々な諸事情も踏まえたうえで評価するわけだが、委員はそれを知らないから、どうやって評価すればいいのかわからない。

委員：

前回の計画策定時に評価を経験したが、委員個人個人で持っている知識や経験等にも差があるなどの理由から、今回提案された大くくりでの評価についてはかえって難しいのではと考える。

委員：
評価を点数化するなど工夫したらどうか。

委員長：
委員が評価するのは、市民の立場で施策についての意見をどんどん出していく方がよいと思う。男女平等参画に関する施策を点数化するのは難しいし、それは、委員が担当することではないと思う。

6 市民意識調査結果速報について

(事務局から資料(6) - 1、2の説明)

委員長：
今日は、単純集計結果と男女別集計結果を示していただいたが、今後すべきことは、クロス集計分析と、グラフを作成すること、全国、都との比較、この3つが必要である。次回推進委員会で出せるか。

事務局：
事務局(支援事業者)、説明を代わりにお願いしたい。

事務局(支援事業者)：
次回推進委員会にて提出する予定である。今回の資料は、アンケート調査と委員会の期間が短かったことにより、現時点までで、できる範囲でまとめさせていただいたという意味で、速報版となっている。

委員長：
私たちが今やるべきことは、クロス集計をどのようにかけるか、案を出すことではないか。

事務局(支援事業者)：
あとは、これを読んだ感想等を委員にあげていただきながら、クロス集計をどのようにかけるか考えていきたい。

委員長：
まず、問10で家事・育児・介護等を主に誰がやっているかを「主に私」、「主に配偶者」などと答えてもらっているが、これに結婚している男女でクロス集計をかけるとよい。これをギャップ分析というが、本人が思っていることと実際夫婦同士で相手に対して感じていることの違いを見る必要がある。このような、気づいたことをあげてほしい。

委員：

この報告書は市民にもどすものなので、市民にわかりやすいかたちで書いてほしい。「である」調ではなく、やさしく「です、ます」調で説明したほうがよいと思う。また、前回調査と同じことを聞いている問があるので、その比較をするとよい。調査報告書（速報版）の1で「回答者のプロフィール」となっているが、「回答者の属性」のほうがよいのではないか。

委員：

18ページの9-4のタイトルが「男女共同参画条例制定～」となっているが、正しくは「男女平等推進」である。4ページの「4 回収数及び回収率」は、回収数と有効回収数が書かれているが、ジェンダー統計に関わるので男女別の数値が必要である。10ページの「4-2 以前の仕事の経験（問11-1）」の最後の1行で、男女別の数値が違っていると思うので確認してほしい。

委員長：

他に意見等はあるか。

委員：

年齢別のクロスなども主だったところはつけてほしい。

委員：

表示のタイトルは正式名称で出したほうがよい。

委員長：

どのクロス集計をするかいいのか考えたいので、エクセルでデータをもらえればと思う。ローデータはもらってはいけないと考えている。

委員：

既婚、未婚別でも見られるのか。全部見られるのか

事務局（支援事業者）：

基本的な属性では、全問でクロス集計することを予定している。

委員長：

マトリックスの一覧表などでどのクロス集計をするのかいただけるとよいと思う。調査報告書は全何ページの予定か。

事務局（支援事業者）：

全部で100ページである。

委員長：

では、これにグラフを1つずつつけて、クロス集計の結果をいくつかつけると100ページ近くなるはずである。何を掲載するかはこちらで意見を出したいので、作業をまず進めていただきたい。

委員長：
職員意識調査報告書も同じようなかたちで出されるのか。

事務局（支援事業者）：
次回委員会で速報版を出す予定である。

委員長：
職員意識調査は、ページ数は決まっているのか。

事務局（支援事業者）：
ページ数は特に決まっていない。

委員長：
市民意識調査は、調査票（資料）を掲載しないで、報告書（資料）を膨らますことはできないか。

事務局：
検討したい。

委員：
調査報告書のダイジェスト版の予定はどうなっているか。

事務局（支援事業者）：
16ページで作成する。

委員長：
ダイジェスト版のほうが多くの市民が読むので、推進委員会での意見を反映させていただけるといいと思う。

その他

事務局：
次回委員会は12月17日（月曜日）田無庁舎のとなりのウイングビル3階の会議室を予定している。第6回は1月11日（金曜日）田無庁舎1階102会議室、第7回は2月14日（木曜日）田無庁舎501会議室で、いずれも18時30分からの開催予定となっている。

委員長：
では、以上で本日は終わりとする。